

標 題 : Twenty-Five-Year Mortality from Coronary Heart Disease and Its Prediction in Five Cohorts of Middle-Aged Men in Finland, The Netherlands, and Italy  
フィンランド、オランダ、イタリアでの中年男性の5コホートにおける  
冠状動脈性心疾患による25年間の死亡率およびその予測

---

著 者 : A. Menotti, et al. (イタリア ISS、米国 ミネソタ大学)

---

掲 載 誌 : Preventive Med. 19: 270-278 (1990)

---

要 旨 : 40~59歳男性の5コホート(フィンランド、2コホート1677人、オランダ、1コホート878人、イタリア、2コホート1712人)を観察して、1959~1960年に心臓血管系疾患の危険因子を評価し、その後25年にわたって死亡率を追跡した。  
冠状動脈性心疾患による年齢調整死亡率はフィンランドが最高(244/1000)、オランダが中間(195/1000)、イタリアが最低で(122/1000)、極端の間に2倍の幅があった。  
冠状動脈性心疾患死亡を終点とし12の危険因子を共変量として、単一コホートおよび国別のコホートについてCox比例ハザードモデルを用いた。

それは、これら要因の有意ではほぼ万能な予測値を示した(珍しい例外あり)。最も高い予測値は年齢、血圧、総血清コレステロール、喫煙、および運動(負の関連)であった。

他のリスク関数を用いた各国内での事態の予測は-19%~+51%の誤差範囲を生んだ。最大の誤差はイタリアコホートに伴い、その経験は他国の冠状動脈性心疾患死亡率を低く予測する傾向で、そして他国のリスク関数によっては高く予測された。

全てのコホートを含むCoxモデルを解くには、国を確認するダミー変数を追加した。

他の全てが等しいとしたときにフィンランド人男性の相対危険度は、イタリア男性と比較で1.49、そしてオランダ男性との比較では1.34であった。

---